

持明院「はすの会」事務局

〒530-0001

大阪市北区梅田1-3-1

大阪駅前第一ビル9階

株式会社高野山寺月会

電話：06-6348-0530

FAX：06-6348-0170

メール：renraku@hasunokai.jp

HP：www.hasunokai.jp

はすの会 会報 No.65

令和5年(2023年)3月1日発行
平成8年(1996年)11月1日初版発行



大師信仰とお遍路

日本人の多くは、弘法大師さまが大好きです。その影響力により地域差はあるものの「四国」を始め高野山・吉野から熊野古道に続く和歌山・奈良そして阪神地方ではお大師さんと呼び、より身近な存在として崇拝しています。

弘法大師は真言宗の開祖で、わが国を代表する一大宗教家であると共に、お釈迦さま以来、人間が信仰の対象となられた稀有の方で、ご入定後は、他の宗教・宗派の枠を超え、大衆の間から〈大師信仰〉が興り、庶民の間へと広まってきました。

その形態は大師伝説、四国霊場回り、高野山・弥勒菩薩信仰等々、他に例を見ない程民衆に膾炙し、さらに人々の生活の一部にもなっています。

〔大師信仰〕の超宗派性・民衆性の特徴は、四国霊場回りによく表われ、その概要は既会報に掲載されています。「レオナルド・ダ・ヴィンチにも勝る」(湯川秀樹氏)と称された弘法大師の信行に亘る天賦

の才が宗教活動のみならず、土木・教育・天文・地理そして文学と広汎に亘る社会活動に活かし、貢献されたこと、特に「いつでもどこへでも信仰する人と共に有り、その人を救う【同行二人】」という約束・請願が、その中核となっています。

一方、四国遍路をする人々には、もとより、もてなす側の人達にも〔大師信仰〕が十分滲透しています。四国遍路の主役が修行僧から庶民へ移り変わって以来(江戸元禄時代以降)一笠一杖、死に装束での旅を覚悟し、遍く路をめぐる人達への作法がつくられていきました。

① 霊場や宿泊所では、心静かに礼拝・読経する。

② 足を洗う前にまず杖を清める。(杖は大師の化身なり)等々…

その作法の厳しきは、他の霊場案内記とは大きく異なっています。遍路巡りは自らの修行、気持ち清める最良の方法で、一生懸命に祈ることから功德が生まれます。またお遍路道には「お接待」と

いう風習があります。お遍路を公平に受け入れて、もてなすことですが無償であることが普通で、一般に言われている「接待」とは大きく異なり、道すじの人達がおにぎりやみかんや飴を施し、湯茶をもてなしてくれるものです。もともと死者を供養する門茶の慣習がお大師さまへの報恩感謝の気持ちに結びついたものだといわれています。

古来、農耕民族である日本人は、大自然の恩恵と厳しさに順応し、神仏を崇め、人々は互いに助け合って生きてきました。遍路道の人々も同じ日本人のDNAが〈大師信仰〉により深く結びつき、自然に〈お接待〉の風習が生まれてきたと推量されます。

今、宗教という名のもとに邪宗や信心を利用する一部の異教徒が社会に害毒をふりまいています。

弘法大師の「秘蔵宝鑰に

「佛法 在するが故に人みる眼を開く。眼、明らかにして正道を行ず……」のおことばがあります。彼等こそ一度お遍路に出られることをすすめたいものです。

南無大師遍照金剛

就任のご挨拶



別格本山持明院
住職・竹内崇真

会員の皆様には、謹んで就職就任のご挨拶を申し上げます。

昨年、九月一日より高野山別格本山小坂坊持明院第四十五世住職となりました、竹内崇真と申します。

私の略歴を申しますと、昭和五十三年七月に先代住職の長男として生を受けました。

平成四年に剃髪得度を受け、平成九年に高野山大学入学の後、四度加行を修め、伝法灌頂に入壇致しました。

平成十二年に学道修行に入り、平成十三年に高野山大学を卒業後、今日まで持明院へ奉職してまいりました。

現在は高野山真言宗の宗会議員など、少しのお役を頂きながら精進いたしております。

まだまだ若輩で浅学菲才の身でございしますが、九〇〇年の歴史ある持明院をお預かりさせて頂く者として、精一杯精進させて頂く所存でございしますので、益々のご指導ご鞭撻を賜りたく衷心よりお願い申し上げます。

さて、いつも会員の皆様には遠路高野山までご参詣頂いており深く感謝申し上げます。

本年は、開祖弘法大師空海様の御誕生一二五〇年の記念の年となります。

お大師様は宝亀五年（七七四年）に香川県にお生まれになりました。

延暦二十三年（八〇三年）に唐の国へ遣唐使として渡り、弘仁七年（八一六年）に高野山を修禪の道場として開かれました。

我々、僧侶、檀信徒はお大師様

のご恩によって仏様の功德を知り、日々に生かされております。

この恩に報いるよう修行をし、善い行いをするを報恩謝徳と申します。

お大師様の教えに四恩というものがありません。父母の恩・国王の恩・衆生（すべての生き物）の恩・三宝（仏・法・僧）の恩です。皆様のなさっている、ご先祖供養はこの父母の恩に報いる行であり、三宝の恩に報いる行でもあります。

生きていくという事は、たくさんの恩を頂いています。生かされているという心を持ち、感謝を忘れないようにいたしましょう。

お大師様の御誕生一二五〇年には、高野山では五月十四日より七月九日まで毎日曜日に法会が執り行われ、各種イベントなどお大師様のご生誕をお祝いし、報恩謝徳の心を捧げます。

ぜひ、この吉祥の年にお参りを頂き、お大師様・ご先祖様へ感謝を致しましょう。

合掌

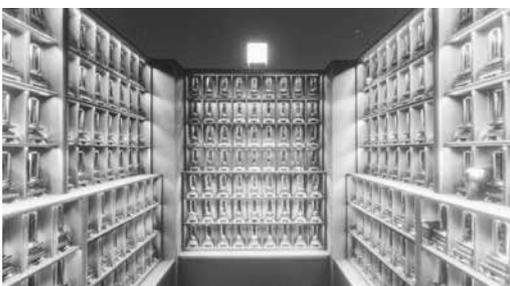
仏舎利宝塔安置室のLEDライト交換

はすの会事務局

仏舎利宝塔内に安置致しておりますが、ご位牌、五輪塔、やすらぎ五輪塔は会員様に確認頂きやすいように、安置室区画ごとにLED照明を設置しております。

今回、別記にあるヴァーチャル参拝サービスを導入するにあたり、全てのご位牌、五輪塔、やすらぎ五輪塔の撮影上、暗くなっていた箇所を明るくするために、かなりの照明を交換いたしました。以前より、より明るくなり故人様ご先祖様も寂しくないと喜んでおられると思います。

ご参拝にお越しの際にはぜひご覧ください。



こころの玉手箱

ヴァーチャル供養サービスのご紹介

株式会社D i o (ディオ)の谷野と申します。この度、はすの会事務局より弊社の技術を使って、会員様に向けて画期的なサービスを提供したいので、制作してほしい、とご依頼いただきました。

内容はヴァーチャル供養サービスというものです。これからどういったサービスかご紹介させていただきます。

現在作成中のものは、はすの会様の会員向けのサービスとして、「仏舎利宝塔永代供養墓のお参り」をヴァーチャル空間で体験できるようになる、というシステムです。

「永代供養墓」とは、たとえどんなにお参りや、ご供養の依頼ができなくなっても、お寺が日々欠かすことなくご先祖のご供養と、皆様の浄福をお祈りする来世の供養墓で

す。皆様のご縁を頂いております。永代供養は、持明院の高僧が仏舎利宝塔礼拝室で毎日、供養(読経)しているとお聞きしております。その精神を弊社の技術でどこまで具現化できるか、を目指しました。

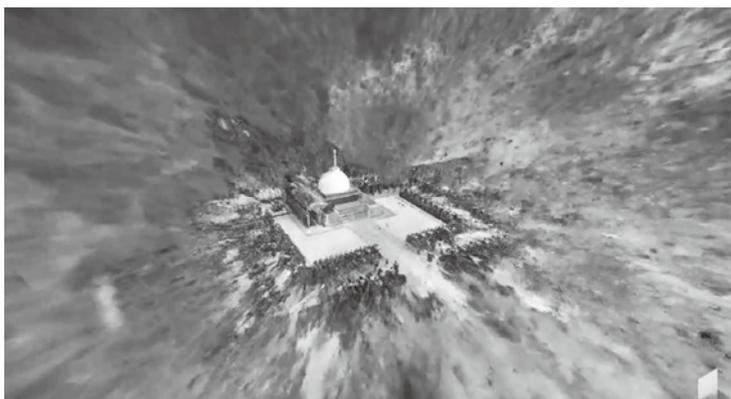
多くの会員様は春秋の彼岸法要、盂蘭盆会、ご命日、年忌法要の際に、高野山にお越し頂くかと思いますが、自宅にいながらパソコンやスマートフォンで簡単な操作で、ヴァーチャル空間(コンピュータで人工的に作り出した仮想空間)でのお参りができるのなら、喜んでいただける会員様は沢山いらっしゃると思います。現実世界では、交通の便や、スケジュールの調整、遠方へのお出かけが難しい方も沢山おられるかと思えます。ヴァーチャル空間を利用すれば、より多くの会員様にご先祖様や故人様を偲ぶ機会が増えると思えます。今回そのようなものを作成致しております。

ヴァーチャル供養は「仏舎利宝塔」の地上と地下をそれぞれ3DCG(三次元コンピュータグラフィックス)で再現した空間で行います。まずは最先端の、立体物計測用のレーザー光線を使ったスキャナー(測定器)によって、対象物の空間位置情報を取得し、さまざまな角度から撮影したデジタル写真をAI(人工知能)を使用した最新の技術によって統合させて立体的な3DCG空間モデルを作成し、「仏舎利宝塔」を再現します。これにより地上、地下ともに、3DCG(立体)の動画として、自宅に居ながら、「仏舎利宝塔」に訪れる体験ができます。流れとしては、仏舎利宝塔全体の映像から、地上墓を案内して、地下に降り、礼拝室や安置室へご案内致します。

会員様専用のID番号とパスワードを入力頂くと、3DCGで制作した「立体仏舎利宝塔」に入ることが出来、繰り出し位牌、五輪塔、やすらぎ五輪塔が礼拝室にゆつくりとまるで光の集合体の様

に現れ、周囲にはお花が飾られ、ローソクが灯され、線香が焚かれます。ご本尊の前で読経が唱えられ、そこでお参りができるという仕組みです。どのように時代が移り変わろうとも、人がご先祖様を祀り、故人を思う気持ちに変わりはないでしょう。これは宗旨宗派を超え、お釈迦様の功德を多くの人たちが拝受でき、ご自宅いつでも好きな時に何度でもお参りが可能になります。

現在鋭意作成中です。今しばらくお待ちください。



春季合同法要開催のつぎ案内

会員の皆様方、この三年間は新型コロナウイルス感染症の影響で合同法要のご参列を見合わせて参りました。

今年に入り、政府は、コロナを現在の季節性インフルエンザと同じ5類とする方針を発表し通常医療へ転換を図る事にしております。その様な背景から今年お待ちに待った春季合同法要を執り行う事に致しました。

しかし、感染者、死亡者が大幅に減少した訳ではございません。

また十分な間隔を設けて皆様に本堂へお入り頂くことはできませんので、マスク着用の上、会話を控えて頂きますようご協力宜しくお願い申し上げます。

高野山は3月とはいえ、まだまだ下界より寒さが厳しく、例年雪が舞う事も珍しくありません。皆様お元気でご参列頂きたいのですが、決して無理せずにご計画下さい。

当日のご参列人数が想定より多い場合は、前半、後半に分けて本

堂にご案内致しますので、速やかにご焼香して下さい。

焼香時間（12時30分～13時15分）

別格本山持明院はその会事務局では、これを機にこれまで以上に会員様や高野山へお越し頂きます方に、安心してお参り頂けるよう努めて参りますので、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



◆日時

令和5年3月19日(日)

12時30分より

◆場所

持明院・本堂

◆法要料(参加費)

無料(ご希望によりお布施は受け付けております)

◆ご参加

自由・予約不要

◆佛舍利宝塔の参拝時間

午前の部

10時～11時30分まで

午後の部

法要後～15時30分

◆ご注意

●各自マスクをご持参いただき、本堂ではご着用の程よろしくお願いいたします。(お忘れになった方はスタッフにお申し出いただければご用意致します)

●密になることを避けるため、入場時間の調整などの入場制限を行うことが予想されます。

●法要の時間は約40分で、その前後に仏舍利のお参りもできます。

●ご親族だけでなく、ご友人などもご参加いただけます。

●当日は12時30分ちょうどから始まりますので、15分前までにお越しください。

●持明院には駐車場がありますが場所に限りがございますので、できるだけ電車・バスでお越しください。南海電鉄の特急(こうや号)は、一ヶ月前から予約できます。

●高野山は山下より温度が下がりますので、冷えやすい方は念のため羽織るものをご持参下さい。

●持明院でご昼食をご希望される方は、ご予約が必要です。

●お一人様2,200円(精進料理)お子様向けも同額でご用意できます。